

芸術文化創造センター 運営組織の考え方について

市民ホール基本構想(平成23年3月策定) における管理運営の考え方

社会文化機関として「芸術文化創造センター」整備
博物館や美術館などは、博物館法により「機関」である
ことが定められているのと同様に、**社会と文化の関わり、
文化による社会開発をする機関を整備する。**



市民との協働、まちづくり事業、育成系事業など、
地域に根ざした施設として、**事業実施のため効率的な
組織体制や専門職員の配置、それを支える財政的な裏
付けが必要である。**

市民ホール基本構想(平成23年3月策定) における管理運営の考え方

運営組織づくり

- ・現在、小田原市には、文化財団のような組織はない。
- ・運営組織が主体となって文化事業を実施することが必要である。
- ・時代に合わせた新しい運営スタイルが求められている。

開館前からの事業実施

開館前から、行政あるいは暫定組織により、文化事業を先行実施することで、その中から、ノウハウや運営組織のイメージ、観客等の開拓などのリサーチを重ね、運営イメージや方向性を確定させていくことが必要である。

メリット

- ・事業や運営についてのノウハウを得られる。
- ・運営ルールづくりを現場の実態に合わせられる。
- ・設計において、使いやすい施設とすることができる。

基本構想を受けて、平成23年度から文化政策課でアウトリーチ、ワークショップ、鑑賞事業を実施している。

劇場法(平成25年3月告示)

「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」

- ・指定管理者を公募により選定する場合には、指定管理料が低廉であることのみを重視して選定することなく、事業の質の確保・向上に留意すること。
- ・創造性や企画性の高い自主事業の実施を促すような環境整備を行うこと。
- ・事業内容の充実、専門人材の養成・確保、事業の継続性等の重要性を踏まえつつ、同制度の趣旨を適切に生かしえる方策を検討するように努めること。
- ・優れた実演芸術の制作、有能な専門的人材の養成・確保等には一定期間を要するという劇場音楽堂等の特性を踏まえ、適切な指定管理期間を定めること。

芸術文化創造センター 管理運営実施計画における 運営組織の考え方

<p>管理運営実施計画の運営組織の考え方</p>	
<p>7.(1) 運営の目的</p> <p>芸術文化創造センターは芸術文化の創造性を活かしたひとづくり・まちづくりを実現するために、市民と専門家とが車の両輪となって地域に密着した運営を行います。</p>	<p>管理運営実施計画内のキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な能力を有する人材の確保 ・地域との連携や市民参加 ・まちづくり ・長期的視点に立って公益性の高い事業を展開 ・経費削減と業務の効率化 ・地域の社会文化機関 ・地域の社会的課題に目をむける ・創造性や企画性の高い自主事業の実施を促す ・事業内容の充実、専門人材の養成・確保、事業の継続性 ・優れた実演芸術の制作 ・公益性のあるまちづくり事業として、中長期的な文化政策 ・事業収入や助成金、企業協賛等をふまえた収支計画 ・効率的な運営 ・公的資金の確保
<p>7.(2) 運営組織の考え方</p> <p>芸術文化の創造性を活かすまちづくりを目標として、4つの使命（育成普及、鑑賞の提供、芸術文化創造、施設の提供）に基づく各事業が効率的に実現できること、特に、教育普及など公益性の高い事業の実施と市民参加を取り入れた運営を継続的に実施できることを重視して、管理運営方法を検討し選択していきます。</p>	
<p>芸術文化創造センターの運営において重視したいポイント</p>	
<p>―― 文化政策を長期的な視点で実現すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手の育成を重視し、公益的な文化事業（アウトリーチやワークショップなどの育成型事業、普及型の鑑賞事業など）や教育や福祉にまたがるような事業の重要性が高いミッション ・市民参加や地域との連携、まちなかに拡がっていく事業の実施も重要な位置づけとなっており、社会文化機関としての役割が課せられている。 	<p>―― 効率性及び柔軟性の高い運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造性や企画性の高い自主事業の実施に必要となるアートマネジメントの知識を持った専門性の高い職員を配置することや、効率的な人事運用が出来ること。 ・経費削減と業務の効率化、チケット収入や施設利用率の拡大、助成金や補助金・企業協賛金、ファンドレイジングなどを進め、経営的な視点で効率的な運営ができること。

<p>管理運営実施計画の運営組織の考え方</p>	
<p>7.(1)</p> <p>運営の目的</p> <p>芸術文化創造センターは芸術文化の創造性を活かしたひとづくり・まちづくりを実現するために、市民と専門家とが車の両輪となって地域に密着した運営を行います。</p>	<p>(P - 31)</p>
<p>運営の基本方針</p> <p>市民参加と専門性の確保</p> <p>質の高い運営と経営の安定化</p> <p>社会文化機関として時代の変化にあわせた運営</p>	

管理運営実施計画の運営組織の考え方

7.(2)

(P - 34)

運営組織の考え方(一部抜粋)

芸術文化の創造性を活かすまちづくりを目標として、4つの使命(育成普及、鑑賞の提供、芸術文化創造、施設の提供)に基づく各事業が効率的に実現できること、

特に、教育普及など公益性の高い事業の実施と市民参加を取り入れた運営を継続的に実施できることを重視して、管理運営方法を検討し選択していきます。

管理運営実施計画の運営組織の考え方

3つの分野にカテゴライズされる

管理運営実施計画内のキーワード

- ・地域との連携や市民参加
- ・まちづくり
- ・長期的視点に立って公益性の高い事業を展開
- ・地域の社会文化機関
- ・地域の社会的課題に目をむける
- ・公益性のあるまちづくり事業として、中長期的な文化政策
- ・専門的な能力を有する人材の確保
- ・創造性や企画性の高い自主事業の実施を促す
- ・事業内容の充実、専門人材の養成・確保、事業の継続性
- ・優れた実演芸術の制作
- ・経費削減と業務の効率化
- ・効率的な運営
- ・公的資金の確保

管理運営実施計画の運営組織の考え方

芸術文化創造センターの運営において重視したいポイント

文化政策を長期的な視点で実現すること

・新たな担い手の育成を重視し、公益的な文化事業（アウトリーチやワークショップなどの育成型事業、普及型の鑑賞事業など）や教育や福祉等にまたがるミッションを確実に実現すること。

・市民参加や地域との連携・活性化など、まちなかに広がっていく事業の実施も重要な位置づけとなっており、社会文化機関としての役割が課せられている。

管理運営実施計画の運営組織の考え方

芸術文化創造センターの運営において重視したいポイント

専門性の高い人材を確保すること

・創造性や企画性の高い自主事業の実施に必要となるアートマネジメントの知識を持った専門性の高い職員を継続的に配置することや、効率的な人事運用が出来ること。

管理運営実施計画の運営組織の考え方

芸術文化創造センターの運営において重視したいポイント

効率性及び柔軟性の高い運営・経営

・経費削減と業務の効率化、チケット収入や施設利用率の拡大、助成金や補助金・企業協賛金、ファンドレイジングなどを進め、経営的な視点で効率的な運営ができること。